

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

| 項目 | 重点目標 | 評価指標及び目標値 | | 評定 | 学校による考察と改善方策 | | 評価資料 | 評価 | アンケート結果(%) | | | | | |
|--------------|-----------|--|-----------------|----|---|--|--|----|------------|----|----|---|-----|-------|
| | | 評価指標 | 目標値 | | 考 察 | 改 善 策 | | | 4 | 3 | 2 | 1 | 肯定率 | 全体肯定率 |
| 資質・能力向上 | 現職教育・研修活動 | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修に励み、授業改善や指導に生かすことができた。 | 教職員の平均肯定率が85%以上 | B | ・外部講師による授業研修によって、主体的・対話的な学びについて理解を深めたり、授業改善に取り組んだりすることができた。 | ①「図読法」等、研修で学んだことを授業改善に生かすことができるよう実践を進めていく。 ②ICTの効果的な活用について実践の共有化を図ることで、より一層の授業改善に努める。 | 教職員アンケート | B | 29 | 43 | 29 | 0 | 72 | 83 |
| | 危機管理体制 | 危機管理意識を高く持ち、速やかな報告・連絡・相談を徹底することができた。 | | | ・報告・連絡・相談が迅速に行われ、課題の早期解決や事故の未然防止に努めることができています。 ・全教職員が、児童の様子などを情報共有し、共通理解の下で指導・支援に努めることができています。 | ①今後も、報告・連絡・相談を迅速に行うことで、事故等の未然防止に努める。 ②情報交換を密にし、一層の児童理解を深めるとともに、問題の早期発見・解決に努める。 | 教職員アンケート | A | 57 | 43 | 0 | 0 | 100 | |
| | 働き方改革 | 温もりと規律ある協働体制を整えることで、勤務時間の削減とともに教職員の資質・能力の向上や人材育成ができた。 | | | ・協働体制は十分に取れていると感じられるが、長時間勤務の改善には更なる意識改革が必要である。 ・会議の効率化や課外活動の適正化によって勤務の効率化を図ることができた。 | ①望ましい協働体制を維持し、業務の効率化や資質・能力の向上に努め、長時間勤務の改善を図る。 ②ワーク・ライフ・バランスを見据えた意識改革に努める。 | 教職員アンケート | A | 14 | 71 | 14 | 0 | 86 | |
| | 情報公開・管理 | 学校等の取組を積極的に発信するとともに、個人情報の保護・管理の徹底に努めた。 | | | ・学校や学級の取組を発信することは、学校・家庭・地域の連携のために重要である。個人情報の管理をきちんと行いながら、取組の発信・啓発に努めたい。 | ①各種通信の発行により、学校・学級での取組の発信、保護者への啓発活動を今後も継続し、開かれた学校づくりに努める。 ②デジタルツールを活用した効率化・セキュリティ強化を進めていく。 | 教職員アンケート | B | 43 | 29 | 29 | 0 | 72 | |
| | 資質向上 | 目標チャレンジを意識して活動に取り組んだ。 | | | ・各自の実践や成果を振り返りながら前期のまとめを行うとともに、後期の目標設定や取組につながるようにしていく必要がある。 | ①学校教育目標の実現に向け、組織の一員としての自覚を持って取り組んでいく。 ②前期の取組の検証し、後期の目標設定に反映させるようにする。 | 教職員アンケート | A | 14 | 71 | 14 | 0 | 86 | |
| 学校運営協議会委員の所見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・好藤小学校と合同の外部講師を招いた研修についてHPで知った。今後もこのような効果的な研修を継続してもらいたい。 ・ICTの効果的な活用について工夫し、更なる授業改善に取り組んでほしい。 | | | 学校の対応 | | <ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだ手法を取り入れ、実践していくことで、授業改善に努める。 ・教職員のICTスキルの向上に努めるとともに、授業の中での効果的な活用について研修を進める。 | | | | | | | |